

地協法人・病院の戦略と予算づくり交流集会(1/14)に参加して

中四国の民医連事業所が集まり、来年度の戦略を主に経営面の視点で情報交換を行った。

最初に、全日本民医連経営部の塩塚副部長より、予算づくりについての講演を聴いた。民医連幹部とは民医連運動を担うという揺るがない覚悟・決意を持つ者である、困難から目を背けないということなどの心構えを語っていただいた。

「連携」の質に点数が配分される中で、点数より先にその患者に必要なアプローチを試みることで、医療介護サービスの質を向上させることが重要であるということだったが、協同病院は、口腔ケアに取り組むなど、そのような先を読んだ取組ができていていると感じた。

補足講演の後には、経営改善の取り組みを進めた鳥取医療生協、愛媛生協病院、玉島協同病院からの指定報告を聞いた。鳥取と愛媛は病床稼働率の上昇で経営を改善、人件費管理に加えて当院でも課題となっている医療薬剤費の縮小等で経営を上向きにしている。玉島協同病院はトップでの経営方針（全事業所で剰余を出す！等）がそれぞれの各部署で実践されており、予算がお題目ではなく至上目標として追及されていることに感銘を受けた。

その後、各グループに分かれてSGDを行った。地域包括へ



の対応のため、どこの事業所も奮闘しており、地域包括ケア病床を開設・拡大したこと、各入院料の基準を上げること・維持することに苦心していること等の報告があった。連携強化という流れの中で、ポジショニングを明確にして、地域ニーズには素早く対応しないといけないということを参加者で共有した。

一人当たり提供される社会保障費が削減される中で、無差別病床を追求する民医連事業所の役割は、地域の中で非常に大切なものである。その中で発展していくためには、予算管理を徹底して、事業を盤石なものにしていかなければならない・・・という原点を再確認した。

(高松協同病院管理室 福永智也)



リレー投稿

「 Nobody Is Right 」

今から11年前、名護の大浦湾の岬の上になだらかな丘があり、そこは「シュゴンの見える丘」という美しい場所であると、Coccoのエッセイから教えてもらいました。沖縄本島には豊かなやんばるの森を破壊する北部訓練場、キャンプ・シュワブにキャンプ・ハンセン、今もって解決しない普天間基地、嘉手納基地（朝鮮半島有事の際、米軍の出撃拠点と想定される）のほか、数多の基地があります。その丘に立つと、過酷な歴史の「重荷」と日米安全保障の「宿命」を背負わされた沖縄の縮図を思わずにはいられないし、そんなCoccoの魂の叫びが、もっとも届かないのが安倍首相なのでしょう。

安倍首相は、先の選挙で現在の日本とその取り巻く世界を国難と訴えました。第二次政権は6年目を迎えますが、アベノミクスは喧伝するほど効果が出ていないため次から次へと看板を架け替えてきましたが、このやり方はいつまで続くのでしょうか。介護においては「地域包括ケアシステム」「地域共生社会」の名の下に、社会保障の理念と乖離していく実勢が着々とすすんでいます。もっと広く社会に目を転じると、分断による連帯の弱まりや「正義」に反するとみなすと（誰にとってもの正しさか？）徹底的に叩く不寛容さが強くなってきているように思います。極論がはびこり、中庸の人々が沈黙し、妥協点を探る努力は失われつつあるのでしょうか。

他者への「想像力」と「感受性」が及ばなくなってきたとは思いたくありません。

また、世界においては自国第一主義で国際秩序を混乱に陥れるアメリカ、強硬姿勢をエスカレートする北朝鮮、極右政党の台頭や独立運動などでヨーロッパの民主主義諸国が揺らぐ一方、中国やロシアなどの権威主義国は体制維持のため民主主義国への影響力を高めようとしています。これらに乗じて、安倍首相は改憲を錦の御旗として推し進めたいのでしょうか、はたして国民はそう思っているのでしょうか。政治は人々の不安や怒りをあおりたてるのではなく、人々が発する声や願いに耳を傾け、時には冷静に説き鎮め、長期的な視野に立った展望を示し、実施していくものだと思います。

私たちは一人ひとりが主権者です。自分の頭で考え、心に問い、立憲主義を守ることを深く考えていく年にしたいと思います。正しさは決して道具ではありません。正しさに執着するのではなく、「余白」を大切に思える私でありたいと思うのです。

(老人介護支援センターほのぼの 西村哲也)

安倍改憲に

物申す



一言